第69回　NPO法人スロコミ編

古今東西 郡ぐんぐん行きます！

郡市長がさまざまな現場を訪問し市民の皆さまの活動の様子などをお伝えします

地域コミュニティーのつながりを育て、持続可能な地域社会の実現に向けて活動する「NPO法人スロコミ」の皆さんにお話を伺いました。

▲コーヒーの焙煎を体験。焙煎の香りとともに会話も広がります

「出番」が高齢者の活力に

地域における孤立の防止や多世代交流の促進を目指し、令和3年に設立された「NPO法人スロコミ」。長町のメインストリートにある介護事業所内に地域の方々が交流できるスペース「マイムテラス」を併設し、駄菓子屋の運営やイベントの開催を通して高齢者の生きがいや地域のつながりを育んでいます。

「ホームヘルパーとして介護の現場に携わる中で、高齢者が社会と切り離されてしまいがちだと感じていました。要介護や認知症になっても、人に感謝されるような出番があれば元気になってもらえると思い、活動を始めました」と話すのは、代表理事の林久美さん。当初は駄菓子屋の運営を通じて地域のこどもたちと高齢者が交流していましたが、コロナ禍により中断。そこで代わりに始めたのが、コーヒーの焙煎の会です。企画を考案した副代表理事の小島英弥夫さんは「参加者が外で豆を焙煎し、施設の利用者が袋詰めして参加者に渡すことで、3密を避けた地域とのつながりと高齢者の活躍の場をつくろうと考えました」と振り返ります。林さんは「施設の利用者も、人との関わりや役割を通して生きる意欲を取り戻しているように感じます。焙煎の会の参加者で介護に関心がなかった方も自然と高齢者のやりがいを生み出していて、こうした流れを広げることが高齢化社会の課題解決に役立つのではと思っています」と期待を込めます。

コーヒーの焙煎を通してコミュニティーをつなぎ、高齢者も元気になる、素晴らしい取り組みだと感じました。

現代版のつながりを育てる

「団体名のスロコミとは『スローコミュニケーションズ』の略。地域に根差してゆっくりと人のつながりを育てたい」と話す小島さん。そんなスロコミには、活動に参加する皆さんに共有している「7つのルール」があるそう。中でも特徴的なのは、互いにニックネームで呼び合うというもの。小島さんは「情報化社会になり便利になった半面、個人情報をさらすのが不安という理由でコミュニケーションが取りづらくなっている部分もあります。本名ではなくニックネームで呼び合う方が親しくなれるのでは、と感じており、『他人以上友達未満』で緩くつながる令和時代のコミュニティーづくりに挑戦しています」と教えてくれました。

理事の今松亮二さんも「肩書にとらわれない関係性はとても心地が良いんです」と続けます。「スロコミの活動を通じて地域の皆さんが互いに少しずつ気にかけ合うことでコミュニティーが広がり、優しい世界を作ることができれば」と思いを語ります。最後にこの場所の未来について「誰でも気兼ねなく立ち寄れる、実家のような場所にしていきたい」と皆さん口をそろえていました。

持続可能な地域社会へ

地域の介護事業所を核に、コミュニティーを広げようという皆さんの発想に深く感心いたしました。建物の中ではにぎやかな声が響いており、とても居心地の良い所だと感じました。

本市としても地域の新たなにぎわいづくりに取り組んでおり、共に持続可能な地域社会づくりを進めてまいります。

▲左から今松さん、林さん、市長、小島さん

［発行］仙台市総務局広報課　☎022・214・1150　FAX022・211・1921
som001020@city.sendai.jp　〒980-8671仙台市青葉区国分町3-7-1

VEGETABLE OIL INK　再生紙を使用しています。紙へリサイクルできますので、雑誌として分別してください。
UD FONT　見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。